

プロジェクト ユニバーサル農業の推進

目 標

・農福連携等取組主体数 R4：88取組主体 → R10：200取組主体

挑戦する内容

- ・円滑な作業受委託の推進
- ・人財の育成と活動の推進
- ・県民の応援機運の醸成

関係者の声
＝対話

- ・農業者の理解を進めるための周知活動や取組のきっかけづくりが必要（農業者、福祉事業者）
- ・窓口の運営を支援してほしい（福祉事業者の声）
- ・農業者と福祉事業所をマッチングするコーディネーターが必要（農業者、福祉事業者）
- ・ノウフクJASなどのノウフク商品を消費者にPRしてほしい（農業者）
- ・特別支援学校生徒の農作業体験の場の確保が必要（教育関係者）
- ・農福から林福、水福へと農林水産業全体へ取組を拡大してほしい（アドバイザー）
- ・農福連携に対応できる福祉事業所の情報を県で把握し共有してほしい（農業者）

役割分担

- ・全県段階～青森県ユニバーサル農業推進会議において、推進方策等を検討、協議
- ・地域段階～農林水産事務所：連絡会議等の開催
- ・農協：農業者への周知
- ・農業者・福祉事業所：ユニバーサル農業の実践
- ・特別支援学校：農業実習・交流会の開催
- ・市町村：農業者・福祉事業者への周知

変革後の姿

- ・多くの農林水産業者が取り組む環境を整え、障がい者等が担い手の一員として活躍し、農業経営が発展
- ・障がい者等が安定的な収入を得ることで生きがいを持った暮らしを実現
- ・一般県民にユニバーサル農業が浸透し、ノウフク関連商品が選ばれる社会

令和8年度計画

挑戦する内容

- 1 円滑な作業受委託の推進
 - ・農業経営士等及び福祉事業所の取組意向調査
 - ・出来高制の料金に適した作物・作業・単価の現地検討やモデル実証の実施
 - ・屋内作業の取組拡大に向けた農協等と福祉事業所のマッチング
- 2 人財の育成と活動の推進
 - ・コーディネーターの実務研修の開催
 - ・新たな取組拡大に向けた基礎講座の開催
 - ・マッチング活動の推進（委託3件）
- 3 県民の応援機運の醸成
 - ・農業高校と特別支援学校の農業交流促進（5特別支援学校）
 - ・取組を応援する企業の拡大（スーパー等における関連商品の販売）



コーディネーター実務研修



農業高校と特別支援学校との農業交流

対話

- ・部会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、意見を参考に事業構築（7月、1月）
- ・各地域で連絡会議等を開催し、農業者と福祉事業所とのマッチング方法等について意見交換を行い地域ごとの窓口の機能強化策を検討（各地域1回）